

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2022年11月 NO.228



[もくじ]

- 2～3 ダンサー育成プロジェクト…池上直子
- 4～5 オンライン授業——伝わる言葉で伝える…井上次夫
- 6～7 甲藤卓雄先生を偲んで…黒岩千賀
- 8～9 読書にのれないときは読書が救ってくれる…山中由貴
- 10 かるぽーとご近所探訪
- 11 「アンテナ」流行り病になっちゃった…下尾 仁
- 12～13 高知市文化振興事業団9月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯

表紙デザイン：「サンタ準備中 ... トナカイ待機中 ...」 坂本翔哉

公益財団法人高知市文化振興事業団

ダンサー育成プロジェクト

池上 直子

Dance Marche(ダンスマルシェ)

主宰・振付家の池上直子と申します。

ダンスマルシェは、物語性豊かな題材をスピーディーな展開で演出・振付した作品を発表しているコンテンツポラリーダンスカンパニーです。

二〇一〇年の発足以来、東京を中心に活動が続けてきました。が、二〇二二年九月、初の地方公演として高知県立県民文化ホールで「星の王子さま」を上演することができ、お客さまからたくさんの温かい拍手や感想を頂戴し、大変感謝しております。

ダンスマルシェが取り組んでいるひとつに「ダンサー育成プロジェクト」というものがあります。「星の王子さま」高知公演では第五弾の「ダンサー育成プロジェクト」メンバーが参加しております。今回はそのプロジェクトのことについてお話をさせていただきます。

ます。

「ダンサー育成プロジェクト」を立ち上げたきっかけ

二〇一八年の夏、若いダンサーに踊りや今後について相談されたのがきっかけです。

その頃、私はダンスマルシェの活動を数年お休みし、文化庁・新進芸術家制度の特別研修員としてドイツ・レーゲンスブルク歌劇場ダンスカンパニーで研修し、数年間ドイツと日本を行き来していました。

私に相談してきた若いダンサーの彼女はこう言いました。「もっと踊りたいのだけど、バイトをしながらレッスンするのもお金がかかる。単発の公演ばかりで、踊りにもっと専念したいけれど、その環境がない」「ドイツのカンパニーはどうでしたか？」等々。相談を聞いてみると、それは私の二十年前と全く変わらない状況であり、

その上、今はインターネットの普及による情報過多で世界が近くなったため、よけいに「今何を踊りたいのか?」「どういう作品を踊りたいのか?」そういったことにとても迷っているように感じました。

ドイツのダンスやバレエカンパニーは州立から市立まで大小ありますが、主に公的資金で運営されている劇場付きのカンパニーです。ひとつの劇場に音楽・演劇・オペラ・バレエといった部門があり、毎日たくさん上演しています。そこで働けるのは、世界中から集まりオーディションを受けて選ばれたダンサーのみの狭き門です。

ドイツのカンパニーの踊る環境を数年に渡って間近で見て感じたことは、人が入れ替わりながらもカンパニーが成長していく過程「ダンサーが育つ」「カンパニーが育つ」「作品のクオリティーが上がる」ということです。さらに、も

と選ばれしダンサー達ですから、そのポテンシャルも高く技術もあり身体が強いのは言うまでもありません。

そのような環境のもとで創られるドイツで観ていたような作品を日本のダンサーが踊るとなると「難しいし、ボキャブラリー(踊りの言語)がないと踊れないなあ。毎日踊る環境もないから身体も弱いしね。ダンサーが育たないと良い作品にもならないもんね」。日本では仕方ないよね」と、踊る環境について半ば諦めのジレンマを感じていました。

若いダンサーから相談を受けたのはまさにそんな時でした。

「踊る環境を作ってあげたいなあ。だったら公演をやるうー」となり、すぐさま仲間のスタッフに連絡をとりミーティング。翌週には会場を押さえていました！

日本における踊る環境を考える

日本において、踊ることが好きな気持ちと努力と強い意志があれば踊り続けることはできます。しかし、踊りに専念したいのだけれども、お金も稼がなくてはならない。バイトや教えるをする人、会社

親に援助をしてもらう人。それでも資金が続かずダンサーを諦めてしまう人もいます。そんな厳しい世界です。

そこで、この「ダンサー育成プロジェクト」では日本でも海外カンパニーのように踊る環境を作ることを目標とし、まず次のようなバックアップを考えました。

- ・毎日のレッスン（無料）
- ・毎日のリハーサル
- ・お給料は出せないけど交通費支給

・踊りの面だけでなく、ファン作り等をサポート

その他にもこのような決め事があります。バイトや教え、他公演のリハーサルもできるようにレッスンの開始は朝の十時から十三時に設定し短期集中。コミュニケーションの大切さや仲間意識を高めるために、公演までの期間（三か月）は毎日みんなと顔を合わせる。私との関係性は「先生と生徒」ではなく「振付家とダンサー」であること。

レッスンを無料にすることで、稽古の延長や月謝を払うレッスンとは違い、踊ることに対して自分で責任を持てるようなダンサーとして成長してほしいと思いました。

また、一人の振付家（この場合は筆者）としつかり向き合うことで踊りのボキャブラリーを身につけて増やしてほしい等々、踊ることだけでなく、踊る環境や悩みをもとに考え、ダンサー達と向き合っていきたいと思ったのです。「ダンサーの質の向上」と「作品の質の向上」、そして「共に成長する信頼関係を得ること」で「カンパニーも成長すること」を目指しました。

ダンサーオーディション

第五弾まで続いた「ダンサー育成プロジェクト」は、その年によ



「星の王子さま」高知公演のメンバー（筆者は下段右端）

って違いですが、公演ごとの募集か一年間のカンパニーメンバーの募集を行いました。

海外のカンパニーと同じように、第一次の書類審査（プロフィール、動画審査）を経て、第二次審査のバレエのレッスン、コンテンポラリー作品を踊り、面接となります。募集人数は、三〇六名ほど。プロジェクトを通して、残るダンサーの子もいれば去る子もいます。

クラウドファンディングを活用

このプロジェクトを実行するにあたり、日本では「ダンサー」や「舞踊家」は職業として成り立ちにくい環境であるという現状を多くの方に知ってもらい、それを応援してくれる方々とともにダンサーを育てていきたい！という思いがありました。どうしたら応援してくれるのかを考え、クラウドファンディングを思いつきました。

当時、クラウドファンディングは今ほど誰もが行っているものではなくだったので、金銭的にも助けになり、同時にこのプロジェクトのよい宣伝にもなりました。四回ほど実施し、おかげ様ですべて希望以上の金額が集まりました。そして何よりも応援をしてくださる

方のコメントが本当に嬉しく、大きな励みになりました。

これからについて

私に相談してくれた、たった一人の若いダンサーをきっかけに始まった「ダンサー育成プロジェクト」は、今年で第五弾まで続きました。大きな団体でない一人の私がこのプロジェクト続けてこられたのは、一番にダンサー達の熱量があつたからです。それによって私も動かされ、多くの作品ができました。そこで私も成長でき、ダンサー達には感謝しかありません。

今後、どのように「ダンサー育成プロジェクト」が発展していくかまだ分かりませんが、熱量を持って前へと前へと進めていきたいと思っています。

いけがみ なおこ

振付・演出家・ダンスカンパニー
Dance Marché 主宰



公式 HP

オンライン授業

——伝わる言葉で伝える

井上 次夫

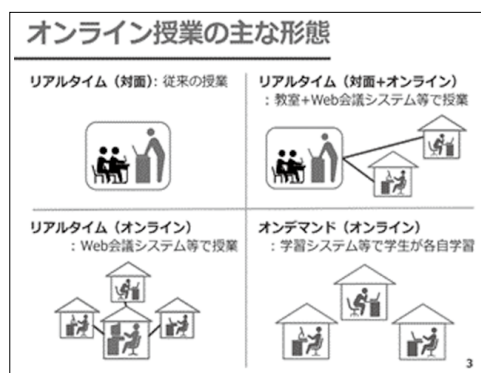
二〇二〇年二月一日、日本政府は新型コロナウイルスによる感染を「指定感染症」とする政令を施行しました。そして、同月二七日

には、当時の安倍晋三首相が全国のすべての小中高に対し三月二日から春休みまで臨時休校の要請を行う考えを公表し、教育界に大きな衝撃を与えました。これを受けて、全国の大学でも同年四月当初から教室での対面授業を全面的に実施しないことになりました。これが大学における完全オンライン授業のスタートでした。

オンライン授業というのは、パソコンやタブレット端末を介して通信ネットワークに接続した状態で行う授業のことです。同時双方向型の場合、教員と学生がそれぞれ学校、自宅など別々の場所でウ

ェブ会議システムを使ったリアルタイムの授業に参加します。

では、私が担当したオンライン授業の一つ「基礎演習」の実際を紹介しましょう。これは新一年生を対象にレポートの書き方、口頭発表の仕方の習得を目的とする授



（栗田佳代子・吉田壘 2020）

業です。四月当初、教員も学生も初めてZoomを使って自己紹介、シラバス解説から授業が始まりました。最初の頃、私は機器操作に不慣れで音声が入らなかったり、画面に授業スライドが提示できなかったり、授業中に通信が途切れるなどのトラブルが続き、まさに冷や汗と失敗の連続でした。

そこで、必要になったのが「聞こえていますか?」「見えていますか?」などと問いかけ、確認する言葉です。また、「〇〇さん、私の声が聞こえていたら、音声アイコンをクリックして返事してください」「スライドが見えていなかったら、反応をクリックで知らせてください」など具体的操作を伝える言葉です。そして、「もし質問やトラブルがあった場合は、」

「」のように事態を予測して対処法を事前連絡する言葉でした。

こうして始まったオンライン授業ですが、教員はパソコンの画面に向かって話します。しかし、画面には授業スライドが映してあるだけで、学生の顔を映していないことが多くあります。すると、教員は対面授業の時と違って、学生の様子を観察して理解度を把握したり、注意を与えることもありません。一方、学生は画面を見ながら講義を聞くだけで、次第に集中力が落ち、目も疲れてきて眠気を覚えることにもなりがちです。

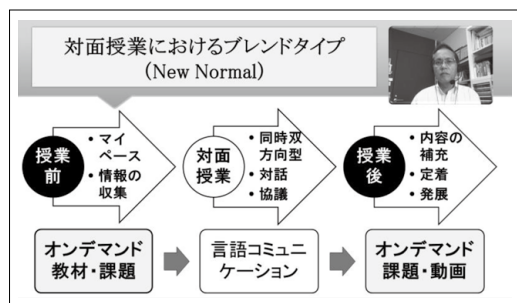
このため、オンライン授業においてこそ、教員から学生への一方的な授業から教員と学生、学生同士の双方向的な授業への転換が必要になってきます。

例えば、教員は単に講義をするだけでなく、適切なタイミングで「ここまでで質問や意見はありますか?」あれば音声をオンにして発言するか、チャットで知らせてください」などと学生の理解を確認、補助するための手立てを講じます。学生からの発言はさほどありませんが、チャットからは多くの質問や感想などが届きます。この意味で、オンライン授業には

文字言語コミュニケーションの契機が存在するといえます。

また、授業にグループ活動を取り入れ、Zoomのブレイクアウトルームを使って学生同士の交流や議論を促します。ルーム定員は四人程度とし、一人ひとりに発言の機会を与えると、学生が自身の考えを整理して話す力、話し合う力を培う場になります。

こうしてみると、オンライン授業には新たな可能性も見えてきます。つまり、オンラインであるが故に、教員には授業実施上の手厚い配慮が求められますが、その結果、学生には対面授業の時よりも一人ひとりが主体的に授業に取り



Zoomを用いたスライド例

組むことが要請されます。この点で、オンライン授業は従来の対面授業のあり方を見直し、改善を迫る契機になり得るのです。

次に、オンライン授業の実践を通して伝達上の言語表現の在り方について考えてみます。

オンライン授業では前述したように、聞き手の顔が画面に映っているとは限りません。この場合、話を進める上で大切な役割を果たす聞き手の表情、相づち、うなずきなど（バック・チャネル行動）がなく、かなり話しづらい状況です。話し手はそういう状況でも、一定のまとまった内容をしっかりと前を向いて話せる言語表現力が求められることになります。

また、オンライン授業ではこれも前述の通り、聞き手への問いかけや確認、具体的な操作伝達、先回り連絡といった一種の言語技術が必要になります。マイクを通して発音の明瞭さ、話す速さなどもこれに加えることができます。

それから、話し手には話の内容が聞き手に正しく通じているかに特に留意することが重要になります。人は、往々にして自分は話したのだから相手には伝わっていると思いがちだからです。しか

し、実際、その話を聞き手が理解していなかったり、誤解したりしていた場合、それに起因する結果は、結局、話し手自身に跳ね返ってきます。そこで、話し手は話す前に、聞き手の立場になって、話の内容や言語表現について間違っていないか（正誤）、分かりやすいか（難易）、誤解を招かないか（適否）、どう感じられるだろうか（印象）などを吟味することが必要です。これを私は、「相手への言語的配慮」と呼んでいます。

この言語的配慮こそが実はオンライン授業における言語コミュニケーションを成功に導く秘訣であり、王道だと考えています。

なお、これとは別に、オンライン授業では文字言語によるコミュニケーションとしてチャットを用いた質疑応答、意見交換が可能です。ただし、これは簡易な伝達の際には有効ですが、いわゆる文章表現力の育成には至りません。

ともあれ、言語コミュニケーションとは言葉による送り手と受け手の通じ合いです。単に伝えただけでは伝わるとは限りません。言葉の送り手は、どう理解されるかなど受け手の立場でよく考えて、分かりやすく適切な表現で伝えな

ければ伝わりません。一方、受け手は、送り手の発話意図を汲み取ることに努め、伝えられた内容を的確に理解しなければ伝わったことにはなりません。

今回のオンライン授業は、そのような両者の互いの表現力と理解力、そして相手への言語的配慮に基づくコミュニケーションの大切さを再認識する機会を与えてくれたように思います。

（参考）

栗田佳代子・吉田壘（二〇二〇）「オンライン基礎講座 授業のオンライン化を念頭に置いたNOMOの使い方」東京大学・大学総合教育研究センター

いのうえ つぎお

一九五九年、兵庫県香美町生まれ。高知県立大学教授。専門は現代日本語学。大学では国語科教員養成、日本語教員養成の関係科目も担当しています。また、学部の国語検定委員会では日本漢字能力検定、日本語検定の受検指導でもオンライン学習支援システムを積極的に活用しています。

甲藤卓雄先生を偲んで

黒岩 千賀

私のフルートの恩師である甲藤卓雄先生が二〇二二年四月十七日に亡くなりました。

私が演奏活動が続けていられるのは甲藤先生がいたからと言っても過言ではありません。

「うちの会社にはフルートの上手な人がおったがよ。今は会社をやめてフルートの先生になっちゅう」と叔父が出してきたカセットテープ。まだ先生が会社員時代のイベントで演奏した『ハンガリー舞曲第5番』を聴き、その音色に感動したことがきっかけで私のフルート人生が始まりました。（この演奏が先生だったことを知ったのはレッスンに通い出してからで、この話をした時に先生がとても恥ず

かしそうにしていたことを今でもハッキリと覚えています。）

その後、中学校で楽器に触れ、高知商業高校（市商で真面目？）に取り組み、卒業後、鏡野吹奏楽団に入団。そこで当時鏡野吹奏楽団の会長であった甲藤先生と出会いました。「市商出身かね。私も市商やった。音大には行っていないけどこうしてフルートを教えよう。千賀さんにも音大を出た人に負けてもらいたくない、それくらいのことを千賀さんには教えたい。タダでいいから私のレッスンに來なさい。」…新手の勧誘かと思いましたが、

まさかタダというわけにもいかず、ちゃんとレッスン料を払って

入門。ご自宅でのレッスン後には、いつも奥様が声掛けしてくださいました。時には過去の先生の失敗談なども聞かせてくださいました。先生、本当に色々やらかしていただきましたよね。楽器店でのレッスンに先生が来なくて、携帯電話も繋がらず、ご自宅に電話したら「あらどうしましょう。今飛行機の中ですの」という奥様の困り果てた声が。あ、またですね。先生のすっぱかしには慣れっこでした。おそらく門下生はみんな経験があるはず。フルートアンサンブルの練習に行く待ち合わせ場所に行ったら「楽器を忘れてきた」なんてことも。そんなところも憎めないチャイミングな先生でした。

そういえば高知商業音楽部の百年記念演奏会で、卒業生三人（先生とたまちゃんと私）でアンサンブルした時、演奏中に楽譜をガサガサし始め、一人だけ違うところを吹いてしまうというミスをした先生。そのお詫びに焼肉をご馳走してくれるという約束、守ってもらってないですよ。

お酒もよく一緒に飲みましたね。「笛吹きは酒が飲めんといかん」よくそう言われました。先生からちゃんと合格をもらえたのはそこだけかもしれないですね。先生と行ったお店、今度は一人で行ってみます。



甲藤卓雄先生と筆者（右）

私が結婚することを主人と一緒に報告に行った時、初対面の主人に「この人がやりたいと言うことは全部やらせてあげてくれんかね。そうじゃないとこの人はいかんなるし、そんなに間違ったことは言わんと思う」と言ったのは、私たち夫婦にとって衝撃的な出来事でした。笑っちゃいましたけど。

「私のレッスンを受けたいと来る人はたくさんおるけど、私からレッスンをしたいと言ったのは千賀さんだけやき、もっと自信を持って頑張りなさい」。そう言われては「出来の悪い弟子ですみません」と返すのがお決まりになっていましたね。

四十二歳の時、新人の登竜門といわれる高知音楽コンクールに出る決心をしたと告げると「そうかね、やつとその気になったかね」と嬉しそうに笑いましたね。そしてまさかの受賞。審査員の先生が甲藤先生に話した内容がとても嬉しかったと聞いて、やつと一つ恩返しできたように思いました。

コンクールで受賞したこと機に、音大卒でない、音楽

家でもない私を高知コンサートグループに招いてくださり、私の音楽人生はさらに充実したものになりました。

最近では会う度に「高響（高知交響楽団）はどうぞね？練習はちゃんとできゆうかね？」とオケの心配をしてくれていた先生。「若い頃に高響にはずいぶん世話になった。今、高響から千賀さんの名前がある案内が来るのが嬉しい」とも言ってくれましたね。適当な返事しかしてなくてごめんなさい。



高知コンサートグループ 甲藤卓雄先生は下段左から4番目

もつとちゃんと話をしていればよかった。

今頃になって思います。私の危なっかしいところ、自由奔放にやりたいことに突き進んでいくところに自分を重ねていたのではないかと。心配でたまらないけれど後押しはしたかったのではないだろうと。思い過ぎですかね。先生からいただいた俳句の本にあった一句が胸にささります。

虹の橋 渡り遊ぶも 意のままに

虚子

守れていない約束がいくつも残っています。これから頑張って一つずつ完了させていきますね。「千賀さんらしいのお。もうちょっと急いで頑張りなさい」と言ってくれていると信じて。

思い出は尽きません。先生、本当にありがとうございました。これからも出来の悪い弟子を見守ってください。

※甲藤卓雄氏

フルート奏者。高校時代にフルートを始め、高校卒業後、会社員として勤めるが、演奏活動専念のため退職。林リリ子、峰

岸壮一に師事し、高知交響楽団、高松交響楽団で首席奏者を務めた。一九六四年、「高知コンサートグループ」を仲間とともに設立し後に理事長を務める。一九七一年、「高知フルート新人会」を立ち上げ、演奏会や勉強会を開催し後進の育成に力を注いだ。二〇〇三年高知県文化賞受賞。



くろいわ ちか

一九六五年 高知市生まれ。

高知商業高等学校卒業。高知市役所に入庁後、小学校給食調理員として勤務の傍らフルートの演奏活動を続けている。

第三十一回下八川圭祐記念高知音楽コンクール優良賞受賞。高知コンサートグループ、日本フルート協会、高知フルート新人会会員。高知交響楽団事務局長。

読書にのれないときは 読書が救ってくれる

どんなに本が好きで読書が習慣になっていて、なにか一冊持ち歩かないと不安になるわたしでも、読書欲が減退してしまう時期がある。ほかに夢中になることがあり、つねに寝不足で、本を開く時間がそもそもとれないとき、物理的に読むことから離れてしまうのだが、そこでさらに読みはじめた本がじぶんに合わない、心理的にも読む楽しさから遠ざかる。うーん、好みの文章じゃないなあ、なんだか盛り上がりがないなあ、登場人物がわけわからなくなってきた、エトセトラエトセトラ……。

「今月載せたい本が見つからない!!!」というパニックに襲われるのだ。こうなると、よく毎月毎月書きたいものがあるなりそこにあつたな、と過去のじぶんの情熱にびっくりしてしまいが、そんなことに感心している場合じゃない、書かなければ!

という読書減退期のわたしを驚くべき力でひっぱたいてくれたのが、道尾秀介さんの『いけない』だった。

『いけない』は変わった本だ。

なんせ、物語のいちばん肝心な結末を、文章ではないものに託してしまうのだから。各章の最後にあるのは、それだけではなにを意味するのかわからない写真だ。物語を読み進めていってそこにある写真を見ることがはじめて、読者の心に落ちない染みをつける、そ

山中 由貴

んな短編集だ。

本の冒頭にはこんな「本書の使用法」が載っている。

・まずは各章の物語をじっくりとお楽しみください。
・各章の最終ページには、ある写真が挿入されています。
・写真を見ることが、それぞれの「隠された真相」を発見していただければ幸いです。

第一章……死んだのは誰か?
第二章……なぜ死んだのか?
第三章……罪は誰のものか?
第四章……????????

物語はそれぞれ独立しており、各話百ページ未満と分量は多くな

い。おなじ町を舞台にしているので登場人物がゆるくつながっている。

まず第一章が、とんでもなくおもしろかった。

幾重にも伏線が仕組まれていることにまったく気づけず、読んでいくうちに何度も「あの場面にはそんな裏があつたのか」という驚きがあり、道尾さんの騙しのテクニクにいいように転がされる。

作者の手のひらの上でもて遊ばれるのは、その作品にすっかりはまりこんでいる証だから、どんどん読むのが楽しくなってくる。

最終章「街の平和を信じてはいけない」では、心残りだった謎にもまたちがう角度から光が当たり、最後の最後に示される写真に、いっそう想像力を掻きまわられる。また、読み終わってみると章のタイトルルの見事さにも舌を巻く。

実験的でトリッキーで、うおおおお! そういうことかあああああ! と何度唸ったかわからない。しかしその後すぐ、さらに驚愕させられることになった。

九月に刊行された続編、『いけないII』である。

一作目とおなじ、各章の最後に



ある写真が鍵となるのだが、その完成度が前作よりも遙かにすごい。

『いけないⅡ』では、また違う町での事件が描かれるのだが、第一章でさっそくイレギュラーなことが起きる。物語の冒頭に写真があるのだ。あれ？いままでのパターンと違うじゃないか、と思うものの、すぐに物語に惹きこまれる。どうやら主人公のお姉さんが行方不明のまま、日常がつづいているらしい。その悲壮感のうすれていった「あと」の日々の描きかたが妙にリアルだ。だからするっと作者の異にかけられてしまう。最後のページの写真を見て、冒頭の

写真が意味するものに気づいたとき、物語のオチが「写真」でなければならぬ理由がそこにはちゃんとあると腑に落ちる。これには痺れた。

そしてつづく第二章がまた鳥肌ものなのだ。文章でとことん緊迫感を高めていって、感情をめちゃくちゃにしておいて、最後に突きつける「写真」でしか表せない視覚の衝撃。完璧すぎるくらい完璧じゃないかこれ……。読後いつまでも肌が粟立って眠れなかった。

たとえば、ふたりの人物が『いけないⅡ』の一話を読んで、一方が写真を見つめ、一方が本を閉じたとしたら、きつと語られる感想はまったく違うものになるはずだ。そもそも解釈すら正反対になってもおかしくない。それほど徹底的につくり込まれている。写真一枚で、作品の印象が物語部分での結末とはまったく違うものになってしまう、そのギャップがえげつない。

そしていま確認して気づいたのだが、このシリーズ、各章最後の写真は、見るか見ないかを読む者が選択できる仕様になっている。文章を目で追っていてそのまま写真が視界に飛び込んでこないよう

に、かならずページをめくるよう配置されているのだ。ああなんて憎らしいんだろう。

読書にいまいち夢中になれないあなたも、この本なら私のように、脳がフル回転しながらページをめくる快感に溺れられるはずだ。

十月のフリーペーパーに載せる本が見つかったのはいうまでもない。(ほつ)

やまなか ゆき

一九八〇年 高知市生まれ。

TSUTAYA中万々店の書店員なかしんぶん編集長としてTwitterやっています。
好きな本について喋るときだけ饒舌になります。

かるぽーと ご近所探訪

高知市文化振興事業団が事務所を置く「高知市文化プラザかるぽーと」。その周辺の気になる企業やお店を訪ねてお話を聞き、地域の魅力の再発見や、かるぽーとを活性化していくためのヒントを探ります。

今回訪ねたのは店内に数々のワイヤーやロープと職人さんの姿が見える、菜園場町の「有限会社伸綱商会」さんです。

——伸綱商会さんについて教えてください
 ださい

設立は一九七九年で、ワイヤー、合織ロープ、チェーンやその関連商品の卸、小売りを行っています。当社の設立以前は、ロープ販売の別会社さんがここにいらつしやったので、会社は違いますが、この地でロープ類を売っている期間は七十年にもなります。



ワイヤー・ロープ、加工商品が並ぶ店内

——はりまや橋からほど近い街の真ん中に、なぜワイヤーやロープのお店があるのか気になっていました

かるぽーとから東の若松町辺りまでの通り沿いには網、綱、金物、船具塗料、物流など、船に関係する店が続いています。かるぽーとの場所には一九六七年まで公設市場があり、堀川には船の往来が頻繁だったため、そういった関係の商売が多く、以前ここにあったロープ販売の会社もまさにそのひとつだと思っています。今回取材を受けるにあたり、私たちもこの地域の歴史をあらためて再認識しました。いや面白いです！

——なるほど！ 実はこれまで、普段の生活であまりワイヤーなどを意識したことがありませんでした

脚光を浴びる機会の少ないワイヤーですが、実は色々なところで大活躍。建設現場や船、瀬戸大橋みたいな吊り橋もそれなしでは成立しない。かるぽーとなら大ホールや舞台機構などにも使われていますよ！

——御社の「強み」は何ですか？

単にワイヤーなどを販売するだけでなく、それらを加工し、製品として販売できること。ワイヤーの特性を十分に発揮するための加工はもちろんですが、ワイヤーで物を吊るす、引っ張るには、その先端に輪っかや引っ掛けるものを取り付ける必要があります。業種や用途によって求められる形やサイズが違います。当社ではそれぞれの要望に沿って加工した製品の提供が可能です。



別棟の倉庫にもたくさんのワイヤーや製品

当社では事例がないですが、ワイヤーが切れる、取り付けた器具が抜けるなんてことが起こると荷物や人命に大きな損害を及ぼします。加工には培ってきた技術者の技を注ぎ込み、細心の注意を払います。そうやってお客様との信頼関係を築いてきました。位置的にも街の中心かつ大通り沿いにお客様が足を運びやすいという地の利を得ています。

——この地域の人やまちの雰囲気を感じていますか？

古くからの商いや住人が多く、お隣さんとも仲がよい。会社裏の堀川沿いは桜の名所で毎年楽しみ。でも花びらや葉が大量に道に落ちてね、それを近所の人たちが自主的に掃除したりする。「やりましょう」なんて言い合わなくてもお互いがこの地域で気持ちよく過ごそうねという思いの表れなのかな、いいことだなと思っています。

——伸綱商会さんのまさに「お隣さん」である、かるぽーと。どんなふうに使っていますか？

開館した時は、この地域が賑やかに

なるなと嬉しかったです。でも平日なんかは「人いるの？」っていうぐらい静かな時もある（笑）。当初ははりまや橋商店街からこちら辺まで高架橋ができる計画もあったとか。かるぽーとと活性化のための努力がもつと運営側になれば、それも実現していたかもしれない。とは言え、人口減少なども相まって集客の苦勞もあると思います。でもせっかくの立派な施設をどうか活かしていってほしい。北広場を使って子どもたちが集まるようなイベントなどいいですね。子どもと一緒に親や祖母も来ていろんな年代の人が集う。高知ならではの食や酒の文化を取り入れたイベントもいい。文化発信の拠点としてまだまだできることがたくさんあるはず。これからも大いに期待しています！

——市場が九反田にあった当時に思いを馳せ、かるぽーと周辺を歩いてみるのも楽しそうです。貴重なお話と温かいエールをくださった伸綱商会さん、本当にありがとうございます！

（お話）有限会社伸綱商会

代表取締役 田中智洋さん
 専務取締役 須郷知仁さん



「アンテナ」 流行り病になっちゃった

下尾 仁



三年ほど前から猛威を振るっている新型コロナウイルス。流行りはじめた頃は、失礼ながら他人事のように思い、テレビ番組などでマスクをしているのに違和感を覚えていたが、一向に収まることなく、あれよあれよと感染拡大。皆がマスクをするのが当たり前に。マスクをしていない人を注意する「マスク警察」も出てきたり、世の中が思いもよらない事態に。もちろんイベントなども中止。小さいながらも、僕の店で予定していたライブなども中止になったりした。

知人、友人もコロナになったと話を聞くことも多くなってきた今年八月。僕も頭痛が。熱をはかってみると三十八度七分。ついにはたかと県が無料で送ってくれる抗原検査キットを頼んだ。その日は、関節が痛く体も熱くなり、氷枕で

体を冷やして寝ていると今度は急に寒くなる、そんなことを繰り返して寝苦しい夜を過ごした。抗原検査キットが届き、綿棒のようなものを鼻の穴の奥につっこみグリグリ。結果はやはり陽性。グリグリしたこの日は、二か月に一回店でやっている「十分間、どうぞ好きな事をやって下さい」というオーブンマイクの日であった。しかも、わざわざ京都から劇団ベビーピーの柳原さんが参加して、家に泊まっていくことになった。柳原さんには申し訳なかったが、すぐにコロナ感染のため中止すると連絡。すごく心配してくれ、またいつか必ず参加しますと言ってくれた。この日は初参加の方も結構来ると聞いていたので、本当に申し訳



リフォームの成果。テラス。

なかったが、偶数月の第一日曜日、十四時からやっているの、是非是非よろしくお願いします。話は戻るが、熱が上がったり下がったりを繰り返して食欲も全くない二日間とは本当にしんどかったが、三日目からはウソのように体が元気になった。元氣だが十日間は外出不可、人に会ってもいけない。さあこの長い夏休みをどう過ごすか。二日間は映画を一日五本くらい見てゆっくり過ごしたが、そろそろ体を動かしたくなってきた。そう、店のリフォームをやらうと朝から夕方まで大汗をかきながら、大工仕事に明け暮れた。おかげで店の入り口は広くなりテラスも作れた。三日ぐらいでできるかと思っていたが、六日まるまるか

かってしまった。

コロナに感染し重症や後遺症が残った人もいるのであまり良くないのかもしれないが、僕にとってコロナに感染しなければできなかったリフォームであったので、すべてが悪いわけではなかった。感染者が減ったと思えばまた増えるを繰り返して、まだまだ先の見えないコロナだが、早く皆がマスクを外し心置きなく出掛けたり相手の笑顔を見ながら笑い合ったりできる日がくるのを待ち望んでいる。

※オーブンマイク

店が一般のお客さんにステージを開放し誰でも飛び入りで参加できるイベントのこと。筆者の店「じんぜんじゅcafe」では歌や演奏、語り、寸劇、ネタ見せなど、各自が持ち時間で自由にパフォーマンスを行う楽しいイベントとして開催。

しもお ひとし

一九六九年生まれ。

岡豊高校一期生。二十五歳ぐらいに演劇に目覚め、日夜面白い事はないかとキョロキョロしている。

一緒に映画を楽しみませんか？

の雨となりましたが、多くのお客様に足を運んでいただきました。

さて、この「市民映画会」の始まりは昭和二十六年までさかのぼります。昭和二十六年一月に開館した旧高知市立中央公民館の記念事業として映画会を開催しその後昭和四十九年に「市民映画会」と名称変更し、現在まで続いています。上映作品の選定や運営には映画に関する有識者、報道機関、教育機関など、様々な分野の映画好きが「市民映画会運営

会場 高知県立美術館ホール

入場者数 三七九名

35年前、彼はなぜ忽然と姿を消したのか？
『レッド・バイオリン』監督が紡ぐ、極上の音楽ミステリー。

ティム・ロス クライヴ・オウマン
(前作よりバネロニスト) (プロデューサー)

天才ヴァイオリニストと
消えた旋律
The Song of Tamas

フランク・ウィリアムズ 長瀬健作 作曲



文化高知 No.228 | 12

高知市文化振興事業団

JHO ジュニアハイスクールアウトリーチ 大道芸アーティスト派遣事業・一学期

高知市文化プラザかるぽーと休館中の一年間（令和四年四月～令和五年三月）、文化芸術活動を身近に感じてもらう取り組みのひとつとして、高知市内の中学校等に大道芸アーティストを派遣するアウトリーチ（訪問・交流）活動を計画し、一学期から実施しています。

参加対象は、中学二年生を中心とした子ども達で、新型コロナウイルスの影響で小学校での修学旅行や卒業式等、全てが簡素化されたこの年代の皆さんに「少しでも楽しい思い出を提供したい。誰もが自然と楽しめる大道芸こそ、思春期で難しい年頃の子どもの心を揺さぶることが出来る」そんな思いで市内の各校を回り、好評を得ています。

二期のアーティストは、to R mansion（トゥーアールマンション）の皆さんです。『とあるマンション』という意味のパフォーマンスカンパニーで、東京オリンピック開会式でもパフォーマンスを披露し、奇想天外なキャラクター達が繰り広げる笑いと驚きいっぱいのフィジカルパフォーマンスとコメディ

ーショーは国内外で高い評価を受けています。

まず始めに、朝倉中学校を訪問。最初は少し緊張している様子の子ども達でしたが、音楽とともにパフォーマンスが始まるとすぐに笑顔に。演目が進み、首無し男が登場すると、子ども達は歓声と悲鳴を上げ大興奮。最初に緊張していた様子が嘘のようです。その後、大盛り上がりそのままパフォーマンスは続き、最後全員で記念撮影を行い、パフォーマンスは大成功に終わりました。撤収作業をしている際に、先生から「コロナウイルスの影響でイベントや行事が少なくなっている中で、こういう機会を作っていただき、ありがとうございます。子ども達にとってもいい思い出になったと思います」と、嬉しいお言葉をいただきました。

その後、高知若草特別支援学校、横浜中学校、高知特別支援学校、三里中学校、日高特別支援学校みかづき分校、潮江中学校と四日間で七校を回りました。どの学校も大いに盛り上がり、子ども達から

は「とんでもないものを見た」「あつという間に時間がたっていた」など、素敵な感想をたくさんいただきました。

滞在後、to R mansionの皆さんから「貴重な機会をいただいてありがとうございます。訪問した七校全てにかけがえのない瞬間がありました。そして今、高知ロスになっています」と、メッセージをいただきました。高知ロスになるほど、高知でのパフォーマンスを堪能していただけて何よりです。



開催日時 九月二十七日（火）
九月三十日（金）
会場 高知市内の中学校等七校
参加者数 合計約六七〇名

捨てる美学

風俗歳時記



「捨てる」ということは意外と難しい。物過去、人、いずれにも歴史や思いが詰まっている。一生懸命やった結果の産物は、さらに捨てる難しさが増す。私はこの度、人生最大の引越越しをすることになった。子育てや仕事に追われながら過ごした3LDKのマンションは、全面リフォームによって老後を快適に過ごすための終の棲家になる。そこに必然的に発生するのが、「捨てる」という行為である。三十年住んだ家には、よくもまあこんなに保管できたものだと思えるほどの荷物が溢れていた。半年以上前からゴミ出しに勤しんだが、部屋を明け渡す一週間前に娘が帰省し部屋を見るなり、「三分の一しか片付いてないねえ」と申し訳な

さそうに一言。「仕事も忙しいし、段ボールにはそれなりに詰めているし」と言い訳すると、「詰めるんじゃなくて捨て！」と一蹴された。それから捨てる捨てる。その四日後には息子も合流し、「過去の栄光はもういいよ。捨てなさい！」とさらに拍車をかけられ、表彰状やコンクールのプログラムや大事にしまっていた衣装なども子ども関係のものも情け容赦なく廃棄された。

ほぼ物がなくなった部屋に吹き抜ける風が妙に心地よかった。反面、これで良かったのかと思う気持ちもある。娘に「私たちはいらないけど、お母さんが欲しかったら持っておいたら？」と声をかけられた。子どもたちが勝ち取った県知事賞の大きなトロフィーや全国大会の貴重なメダル、やっとの思いで代表になった国体のジャージ。ジャージは私がジムで着るとして、トロフィーや賞状は何の役に立つのだろう。でも、これらは子育てを必死でやってきた私への勲章でもある。リフォーム期間は三か月。ゴミ袋百個は優に捨てた。それでも残ったものに不要なものは必ず存在する。高級なものを買い漁ったバブル世代、さらに物が無く何でも溜め込んで育った戦前の親世代。二代続く捨てられない親子だが、今時の若い世代は「捨てる美学」は自然に身につけているらしい。

(立花香)



高知を撮る

第37回写真コンテスト入賞作品

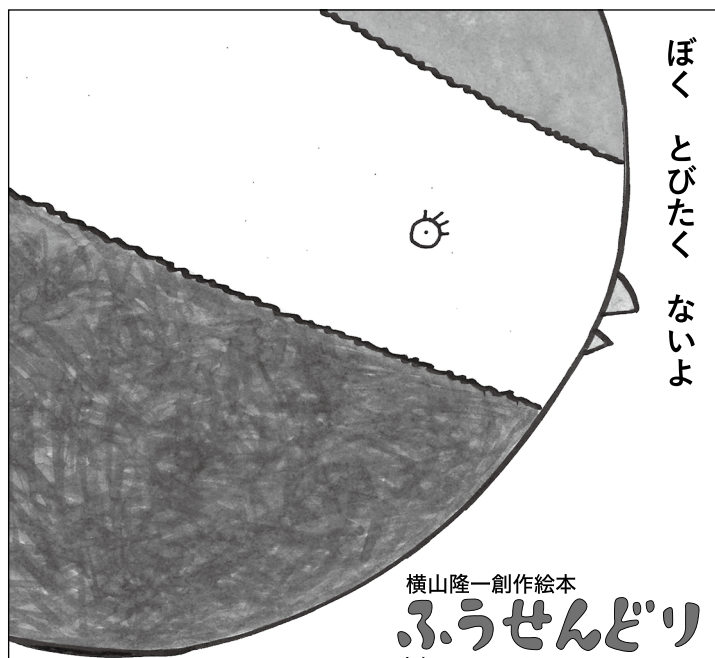
昭和34年12月31日～足摺岬

田所 睦三

(昭和34年12月31日 足摺岬)

上：旧足摺岬灯台。灯台守の家族官舎では正月準備が行われていた。灯台は昭和35年7月に現在のロケット型に改築、無人化により、この官舎もなくなった。時代が偲ばれる。中：地元の子ども達が大晦日の岬を駆けめぐっていた。田宮虎彦著「足摺岬」(映画化)で有名となり当時岬からの投身自殺が相繼いだことから、「一寸まで」の看板が立っていた。下：第38番札所金剛福寺境内では、お遍路さんが正月を迎える清掃の奉仕に励んでいた。

ぼく とびたく ないよ



横山隆一創作絵本
ふうせんどり
定価:1,100円 (本体1,000円+税10%)
[お問い合わせ]横山隆一記念まんが館 088-883-5029

淡路人形浄瑠璃

高知公演 出演・淡路人形座

2022年
11月19日(土)
開場 13:30 開演 14:00

全席自由
一般/前売り 1,500円
当日 2,000円
高校生以下
/前売り 500円
当日 700円

主催・お問い合わせ
公益財団法人高知市文化振興事業団
Tel:088-883-5071
<https://www.kfca.jp/kikaku>

於 高知市立自由民権記念館・民権ホール



風伯

岬観光ホテル

カーステレオから、イーグルスのホテル・カリフォルニアが聞こえる。風薫る室戸岬の道路。たどり着いたレトロなホテルは、まるで私と助手席の妻に語りかけているかのようだ。

「ようこそ、岬観光ホテルへ。海辺のお部屋、素敵過ぎる外観」

ホテルの内も外も、推理小説の舞台を彷彿とさせる。何か事件でもおきそうかな予感さ。夫婦の小旅行に、そんなことあるはずもないが。

一九二七年、海岸、湖沼など部門別に「日本八景」を決する葉書投票が行われた。大激戦となるなか、ついに室戸岬が海岸部門の日本一となる。

八景全体で、投票総数が当時の人口の一・五倍という、国民的投票の結果だった。室戸が沸いた。

この室戸民、いや高知県民歓喜の潮流が、やがてこのホテルを生む。昭和初期が、令和に現存しているのだ。

近くの海水プールでしこたま遊んで、特別注文したキンメダイ料理付きの豪華な夕食を妻と楽しんだ。

ホテルがまた私たちに語り始める。

「ある者は日常を忘れるため泊まり、ある者は歴史を覚えるため泊まる」

その夜、事件はおこった。サイレンを鳴らして赤色灯がホテルに着く。

私は持病で喘息の気があるのだが、私のおこしてしまったのだ。ご主人の計らいで命は助かったが、ずいぶん迷惑をかけてしまった。大深謝。

「ようこそ、岬観光ホテルへ。海辺のお部屋、素敵過ぎる外観」

翌朝、ホテルからチェックアウトはできても、私の心はいつまでもホテルの中で虜になっていた。

(三)

今号の表紙

「サンタ準備中… トナカイ待機中…」

坂本 翔哉

11月を別の角度から見るとクリスマスの1か月前なので、サンタクロースの準備期間のように感じました。窓のところだけ暖色を使うことで、サンタクロースの家の中の暖かみを表現しました。トナカイはまだ首輪もつけずに気長に待っています。クリスマスまであと少し!

(さかもと しょうや/
龍馬デザイン・ビューティ専門学校2年生)

THE MONEY RAZZ

一ツノ・ブー・ネ・キ・交響曲
作=モリエール 翻訳=秋山伸子 演出=シルヴァ・ブルカレーテ
2023/11/14(土)

加治将樹
竹内将人
大西礼寿
牙野はな
佐々木蔵之介

高知市文化振興事業団
KUTVテレビ高知
後援:在日ルーマニア大使館
企画制作:東京芸術劇場
<https://www.purcarete-fes.jp/>